

令和7年度小学校教科担任制実施報告書(高学年型)

学校名
尾道市立尾道みなと小学校

1 学校の概要

(1) 学校の学級数

	通常学級							特別支援学級	合計
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	計		
学級数	1	2	2	2	2	2	11	5	16

2 加配教員が専科指導を行う教科及び週当たりの担当授業時数

(1) 第5、6学年の指定教科

指導教科名	指導学年	指導学級数	1学級当たり時数(週)	授業時数(週)	兼務校での実施
算数	5	2	5	10	
算数	6	2	5	10	

授業時数 計 20 (a)

(2) その他

指導教科等名	指導学年	指導学級数	1学級当たり時数(週)	授業時数(週)	兼務校での実施
				0	

授業時数 計 0 (b)

授業時数 合計 20 (a)+(b)

3 教科担任制推進教員を配置した授業計画

教科等	国語	書写	社会	算数	理科	音楽	図工	家庭	体育	外国語	道徳	総合	特別活動
週当たり標準授業時数	5		3	5	3	1.4	1.4	1.6	2.6	2	1	2	1
6年 1組 (担任: A)	A	専科	D	推進	専科	専科	B	専科	A	専科	A	A	A
6年 2組 (担任: B)	A	専科	D	推進	専科	専科	B	専科	B	専科	B	B	B

教科等	国語	書写	社会	算数	理科	音楽	図工	家庭	体育	外国語	道徳	総合	特別活動
週当たり標準授業時数	5		2.9	5	3	1.4	1.4	1.7	2.6	2	1	2	1
5年 1組 (担任: C)	C	D	B	推進	専科	専科	D	専科	専科	専科	C	C	C
5年 2組 (担任: D)	C	D	B	推進	専科	専科	D	専科	専科	専科	D	D	D

4 高学年担任が指導を行う教科等及び週当たり授業時数

学年・学級	児童数(人)	担任	担任する学級以外の授業時数(週当たり)				担任する学級の授業時数(d)	授業時数の合計(c)+(d)
			指導学年・学級	教科等名	時数	時数計(c)		
6-1	34	A	6-2	国語	4	5	10.6	15.6
			1-1	書写	1			
6-2	34	B	6-1	図工	1.4	9.2	8	17.2
			5-1	社会	2.9			
			5-2	社会	2.9			
			4-1	書写	1			
			4-2	書写	1			
5-1	23	C	5-2	国語	4	8.4	8	16.4
			4-1	外国語活動	1			
			3-1	音楽	1.7			
			3-2	音楽	1.7			
5-2	24	D	6-1	社会	3	11.4	6.4	17.8
			6-2	社会	3			
			5-1	図工	1.4			
			5-1	書写	1			
			4-2	外国語活動	1			
			2-1	書写	1			
			2-2	書写	1			

5 成果と課題

(①授業の質の向上、②多面的な児童理解、③小・中学校の円滑な接続、④教師の負担軽減、⑤その他)


〈効果のあった取組〉

- ・月1回の教科担ブロック会議を設定し、学習上の課題と生徒指導上の課題や取り組んでいく方向性を確認した。
- ・会の中で確認した内容を会議録として整理し、全教職員で取り組んでいく方向性を共有した。
- ・教科担任を中心に、授業で効果のあった実践報告を全教職員に向けて行い、教員の授業改善を図った。

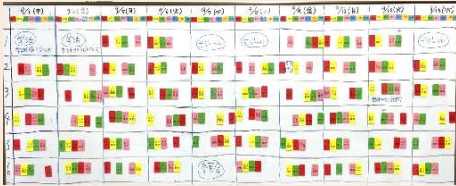
① 

②

- ・全国学力・学習状況調査の結果分析を中学校区で行い、小学校1年生から中学校3年生のそれぞれの学年の2学期からの取組を協議した。

③ 

- ・ホワイトボードを活用した時間割作成を行い、各教員の空き時間の確保や見える化を行った。

④ 

〈成果〉

- ・アンケート「教科担任制で学ぶことで、勉強の内容がよく分かるようになりました。」において肯定的な回答をした児童の割合 第1回96.2% 第2回92.7%
- ・標準学力調査の結果(全国平均との差)  
第5学年 国語科+6.5 算数科+4.2  
第6学年 国語科+15.3 算数科+15.1
- ・アンケート「専門性が高まることで、学習指導の充実につながっている」において肯定的な回答をした教員の割合 第1回100% 第2回100%
- ・アンケート「授業を担当している学級や児童に対して、組織的な生徒指導ができています。」において肯定的な回答をした教員の割合 第1回100% 第2回100%
- ・若手教員を含め、それぞれの教員が授業の引き出しを増やすことができたとともに、授業づくりについて相談し合える雰囲気をつくることができた。

- ・アンケート「中学校から教科ごとに先生が変わることに対して、不安がなくなりました。」において肯定的な回答をした児童の割合 第1回91.3% 第2回92.7%
- ・それぞれの教科の系統性を意識した協議を進め、今後の取組を考えることができた。
- ・それぞれの学年だけでなく小中9年間の系統性を意識した協議をすることができた。

- ・アンケート「指導教科数の減少により、教材研究の時間の確保等、業務改善につながっている。」において肯定的な回答をした教員の割合 第1回100% 第2回100%

④

〈課題〉

- ・多くの児童を複数の教員で見ることができ一方で、各担任が自学級の児童とかかわる時間が減っている。児童のアンケートの中にも「担任の先生とあまりかわれなくなりました」という回答があった。

②

- ・中学校と定期的な連携は行えたが、教科担任制という視点では、中学校のノウハウを十分に取り入れることができなかった。

③

- ・高学年の時間割を作成後に下学年や特別支援学級の時間割を作成するため、全学級の時間割が作成されるまでに時間がかかってしまう。

④

- ・授業内で、十分な学力補充の時間や欠席児童のテスト時間の確保が難しい。

⑤

〈対策〉

- ・複数の教員で把握した児童実態を活用しながら、休憩時間等に積極的に児童に関わるようにする。
- ・また「担任以外の先生も自分たちを見てくれる。誰にでも相談できる。」という雰囲気を学校全体で醸成していく。
- ・他学年とのつながり、関係性を作りやすいというメリットを生かしていく。

②

- ・中学校との連携を深め、取り入れることができることは意識的に取り入れていく。

③

- ・時間割作成用ホワイトボードを活用し、全員が2週先を意識できるようにする。
- ・期日を全員で厳守し、時間割作成のリズムを作っていく。

④

- ・各教科担任が学習内容を学級担任と共有し、家庭学習と関連付けられるようにする。
- ・教科担任制推進教員が中心となって、未実施のテストを集約し、休憩時間等に担任や、専科の教員が監督者として実施できるよう調整する。
- ・算数科等で学習の定着を図る授業時間を設定し、複数の教員で補充指導ができるようにする。
- ・期間を限定し、放課後に、学力補充の時間を設定する。

⑤